

憲法しんぶん 速報版
発行 憲法改悪阻止各界連絡会議（憲法会議）
Eメール mail@kenpoukaigi.gr.jp TEL03-3261-9007
ホームページ http://www.kenpoukaigi.gr.jp FAX03-3261-5453

2021年12月13日(月)
NO. 1229号
本号3頁

憲法共同センター「9の日」宣伝 新署名への協力を訴える!!

一憲法改正・敵基地攻撃能力・大軍拡に前のめいの岸田政権を厳しく批判一

憲法共同センターは12月9日昼、新宿駅西口で「9の日」宣伝を行いました。11団体21人が参加。提起された「憲法改悪を許さない全国署名」への協力を呼びかける初めての署名宣伝行動でした。

民青同盟の青山昂平常任委員は、「コロナ禍での学生の暮らしを守る食料支援を全国で行い、延べ10万人を超える学生らに支援物資を届けた。1日に1食しか食べられないなど状況は深刻であり、若者が苦しんでいるのに敵基地攻撃能力など軍事力の拡大は許せません」と訴えました。



農民連の町田常高さんは、「岸田政権の軍事予算は6兆円を超えた。一方で、今年の米価は1俵7900円で、これでは農民はタダ働きとなり、生活が大変。コロナ禍で昨年の米が余っており、400億円、500億円あれば買い取れるので、政府に買い取ってほしい」と訴えました。

日本共産党の吉良よし子参議院議員は、「岸田首相は所信表明演説で憲法改正の章を立てて強調し、改憲・軍拡に前のめりだ。そして、敵基地攻撃能力保有を検討すると発言したが憲法9条違反だ。憲法破壊を許してはいけない」と強調。軍事予算が6兆円を超えているのに、文部科学予算は4兆円規模だと指摘、「軍事予算ではなく、教育予算を抜本的に増やすべきだ」と訴えました。

舟橋初恵全労連女性部部長は、「女性の貧困に心を痛めている。女性の6割は非正規で働き、コロナ禍で仕事を失うなど、いのちを絶った方も大勢いた。いのちを守る政治と言うなら、予算は戦争するための武器につかうのではなく、社会保障、福祉、教育に使い、支援が必要な人たちに届けさせてほしい」と呼びかけました。

高橋信一憲法会議事務局長は、「維新の会が参議院選と憲法改正の国民投票の同日実施を言っているが、改憲派の政党でも考えが違うし、日程的にも無理だ。岸田政権は、敵基地攻撃能力の保有を言うが、それは「やられる前にやっつけてしまえ」と攻撃される前に攻撃するということであり、攻撃された相手国も反撃するため、全面戦争になると、その危険性を指摘しました。

安井正和日本原水協事務局長は、「自民党は憲法改正推進本部を「憲法改正実現本部」と改めたが、その議論を見ると「憲法改正の議論は歴史的なものであり、民主主義、立憲主義を高めるもの」と言っているが信用できない。アベスガ政権は、安法制の強行、モリ・カケ、桜で政治を私物化し、日本学術会議会員の任命を拒否した。岸田政権は敵基地攻撃能力を所信表明で言っており、民主主義・立憲主義と言っても信用できない。政府は核兵器禁止条約に背を向け続けている。軍事力でなく、憲法9条を生かした平和的な外交を行うべきだ」と訴えました。

都内大塚では東京の仲間が署名宣伝行動

憲法東京共同センターは9日の昼に、都営荒川線大塚駅前に「9の日署名宣伝行動」を実施し、8団体19人が参加しました。憲法改悪をゆるさない全国署名（全国市民アクションが提起した新署名）14筆を集め、チラシ入りティッシュ150枚を配布しました。

神奈川 ふじさわ・九条の会 新署名をリレートークで訴える!

改憲の策動が強まるなか、神奈川県ふじさわ・九条の会は9日、藤沢駅頭で「9の日署名宣伝行動」に取り組みました。改憲反対の一人一人の意志を国会へ届けようと、新署名「憲法改悪を許さない全国署名」に取り組み「改憲を阻止して命と生活を守る政治にかえましょう」とアピールしました。

参加者は「武力で平和は作れない 戦争NO!」等の横断幕を掲げ、自民党の改憲4項目を批判したビラを配りながら、リレートークしました。

リレートークでは、マイクを持った参加者が、総選挙で改憲発議に必要な3分の2の議席を得た自民党など改憲派は、憲法9条に自衛隊を明記し、緊急事態条項を創設するなど、自民党改憲4項目の憲法審査会での議論を急ごうとしていますと指摘し、国会が改憲の発議をすることを許さないたたかいが緊急に求められているとして、新署名への協力を呼びかけました。

その一人の79歳の男性は「戦争の危険が迫っている。9条に基づく対話による平和外交で、絶対に戦争を起こしてはいけない」と呼びかけました。

署名を集めていた女性（78）は「まずは平和。何よりも命が大事。戦争は命の取りっこ。戦争だけは許せない」と語り、懸命に署名への協力を呼びかけました。

孫を抱っこしながら署名をした女性（71）は「8日は太平洋戦争開戦の日。戦争を放棄した憲法。絶対守らなきゃいけない。戦争はしちゃいけない」と力を込めました。

岸田政権のもとで、改憲の動き強まる!!

衆院憲法審査会 与党幹事懇に国民・玉木氏参加

衆院憲法審査会の与党幹事懇談会を9日に開き、国民民主党の玉木雄一郎代表が出席しました。これまで与党側の幹事懇は、自民、公明両党と憲法改正に前向きな日本維新の会の3党で開催していましたが、初めて国民が加わりました。

玉木氏は幹事懇後の記者会見で、参加した理由について「とにかく審査会を開くな、議論するなという勢力とは一線を画したい」と説明。「改憲の中身や進め方については党の主張をしっかりとしていきたい」と述べ、立憲民主党など他の野党をけん制しました。国民は維新と連携し、憲法審査会の毎週開催を求めるなど改憲議論を加速させる方針で一致しています。

この日は与野党幹事による協議もあり、新藤義孝・与党筆頭幹事（自民）が16日に審査会を開き、自由討議を行うことを提案しましたが、奥野総一郎・野党筆頭幹事（立憲）が持ち帰り、結論は出ませんでした。

国民民主の衆院憲法審査会の幹事懇参加を、共産党志位氏「危険な道」と批判

日本共産党の志位委員長は、国会内の記者会見で、玉木氏の与党幹事懇談会への参加を厳しく批判しました。

「与党（側）の枠組みの中に日本維新の会だけではなく、国民民主党も参加したと聞いている。これは大変危険な道にのめり込みつつあるなというふうに考えている。憲法審査会は一般的に憲法を議論する場ではない。憲法改定案の発議をする場だ。ですから、これを動かすと、結局そこに持

っていこうというのが自民党の狙い。その中身は改憲4項目、憲法9条の改定、緊急事態条項、これを入れ込んでいこうというのが自民党の方針だ。ですから、これを動かすと、結局その出口に持っていかれる。国民が望んでもいない9条改定や緊急事態条項を無理やりやろうというのが自民党だ。ですから、そこへの道を開くことになるから、私たちは憲法審査会は動かすべきではないという立場で臨む」と語りました。

日本維新の会と国民民主党は、憲法改正に向けた議論を加速させるため、衆参両院で憲法審査会を毎週、開催するべきだと主張しているのに対し、立憲民主党の泉代表は「必要な憲法議論は行うが、改憲自体が目的となっている議論はおかしい」としています。

与党側はこれまで、憲法審査会は、野党側の合意を前提に進める姿勢を取ってきましたが、与党側の懇談会に野党2党が参加することで、審査会開催の強行など、今後の審査会の動向が注目を集めることになりそうです。

「国会議員の責務を果たしているか」と、自民茂木氏が改憲議論で一部野党を批判

自民党の茂木幹事長は8日の衆院代表質問で、国会での憲法改正の議論に否定的な立憲民主党などの一部野党を念頭に、「国会議員の責務、国会の役割を果たしたと言えるのか」と批判しました。茂木氏は「(野党の)一部には、改正を前提とした審議はしないという意見もあるようだ。『議論のための議論ならやってもいい』とも取れる」と皮肉を込め、衆参両院の憲法審査会で議論を重ねる必要があるとの考えを示しました。

これに対して岸田首相は、国会での議論と国民の理解を「車の両輪」に例え、「広く国民の議論を喚起していくことは国会議員の責務だ。与野党の枠を超えてこれまで以上に活発な議論が行われることを心から期待する」と応じました。

続いて質問に立った立憲民主党の西村幹事長は、「改正のための改正にはくみしない」と立ち位置を鮮明にしました。その上で、首相が改憲に前向きな発言を繰り返していることについては、「本意なのか、安倍元首相ら改憲に前向きな勢力への配慮なのか」と問いました。首相は「改憲に取り組むことは、まさに私の本意だ」と返しました。

宏池会の名誉会長古賀誠氏は、「宏池会はあくまで憲法に流れる平和主義、基本的人権、主権在民、これだけは堅持すべき」と主張しています。現会長の岸田氏は、「敵基地攻撃能力の現実的検討」を掲げたり、「私の本意」として改憲に突き進むなど、この宏池会の路線を外れた方法に走っているように思えてなりません。

自民党改憲実現本部が会合 地方遊説や対話集会を重ねる方針了承

自民党憲法改正実現本部(古屋圭司本部長・日本会議国会議員懇談会会長)は7日、党本部で幹部会合を開きました。実現本部は11月に「推進本部」から名称を変えました。この日の会合では、本部内に新設する「憲法改正・国民運動委員会」が、改憲推進のため各都道府県連内に設ける組織と連携し、地方遊説や対話集会を重ねる方針が示されました。党是とする改憲への機運醸成を図る狙いがあると報じられています。

この日は、今後の活動方針や態勢強化の目的を確認したほか、顧問や事務総長らの幹部人事についても協議。近く本部会合を開く方針を了承しました。会合には、安倍晋三元首相や麻生太郎副総裁も出席しました。

会合後、古屋氏は記者団に「組織強化により、国民が主体的に参画する機会を提供したい」と強調し、改憲の是非を問う国民投票の実施に意欲を見せました。本部事務総長に就任予定の新藤義孝元総務相は、今国会中の憲法審査会開催を目指す意向を明らかにしました。新藤氏は衆院憲法審の与党筆頭幹事を務めています。